
こぶとりじいさん

すとむみずみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こぶとりじいさん

【Nコード】

N1448T

【作者名】

すとむみずみ

【あらすじ】

わりとむかしの、お話。

むかしむかしと言えば否定はできないけど、誇張表現と指摘されれば、それもまた否定できないから、改めて言い直すと、わりとむかし、都から山をひとつ越えた田舎の村に、おじいさんとおばさんが暮らしていました。

おじいさんはとてもやさしい人でした。笑ったらとてもにこやかで、おばさんが惚れたのも納得できなくななくなりました。

おじいさんの肉体には、余分なものがひつついていました。

余分な脂肪が、お腹のまわりにたまっていました。

そんなおじいさんの容姿を見て、村の人たちは、おじいさんのことを「小太りじいさん」と呼んでいました。

そんな小太りじいさんの隣の家に、いぢわるなおじいさんが住んでいました。

いぢわるなおじいさんは、小太りじいさんよりも少しばかり太っていたので、村の人たちはいぢわるなおじいさんのことを「ねお小太りじいさん」と呼んでいました。

ねお小太りじいさんは、自分がねお小太りじいさんと呼ばれていることを知りません。

小太りじいさんは、彼を煩わす脂肪をとるために、都へと旅に出ました。

その日の夜、小太りじいさんは、なにかが低くうなるような声を聞きました。その声は、声の主の空腹を告げていました。

小太りじいさんは、たまたま通りかかった鹿を素手で狩り、その肉を持って声のほうへと向かっていきました。

声の主は、赤鬼さんでした。赤鬼さんは、小太りじいさんからもらった鹿肉を平らげても、まだ空腹だという意味の言葉を言いました。

赤鬼さんの命令で、赤鬼さんの腹がふくれるまで、何度も何度も鹿を狩ってきました。途中からは都で買ってきました。

気がつけば、あたりは明るく、陽が昇っていました。

そうです、いつの間にか小太りじいさんはだいえっとに成功していたのです。

目的を果たした小太りじいさんは、村に帰ると、村の人たちに、「赤鬼のおかげでだいえっとに成功したのじゃ」と、真偽を織り交ぜて話し始めました。

その話を聞いたねお小太りじいさんは、さっそく山へのぼりました。

夜、ねお小太りじいさんは、鹿の肉を持って赤鬼さんのところへ行きました。

ところが、赤鬼さんは小太りじいさんの時点で鹿肉を食べ過ぎていて、おでぶになっていました。

ねお小太りじいさんにお肉を差し出された赤鬼さんは、馬鹿にされたと勘違いして、怒り、魔法を使って、自分の脂肪をねお小太りじいさんに移しました。

なんとか村に帰ってきたねお小太りじいさんは、村人に、今度はねお小太りじいさん（改）と呼ばれました、とき。

めでたし、めでたし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1448t/>

こぶとりじいさん

2011年8月22日21時35分発行